



U M S

Universal Management System

ご使用前に、「安全上のご注意」を必ずお読みください。

Ver1.7

- 目 次 -

1. 仕様	3
2. プログラム設置	4
3. ログイン	6
4. メインメニュー設定	8
5. 監視デバイス登録	9
6. 登録リスト移動及び並び替え機能	16
7. DVR接続/接続終了	17
8. デバイスビューアー実行	18
9. 画面表示機能	20
10. 画面分割モード(ライブ再生共通)	21
11. 順次接続(シーケンス)	22
12. マルチ・シングルモード	23
13. 音声機能(ライブ/再生共通)	25
14. PTZ遠隔操作	26
15. 遠隔検索	28
16. 遠隔バックアップ/ビューアー	32
17. キャプチャー	37
18. ズーム	38
19. 遠隔設定機能	39
20. デバイスヘルスマネージャー機能	40
21. 温度監視	42
22. デスクトップ通知	45

■ 1. 仕 様 ■

PCの仕様やインターネット速度によってUMS機能に制限があります。

PC推奨仕様

CPU	i5以上
MEMORY	4G以上
グラフィックカード	1G以上
ハードディスク	60G以上
OS	Windows 7 / 8 / 10
その他	DirectX 11C以上設置

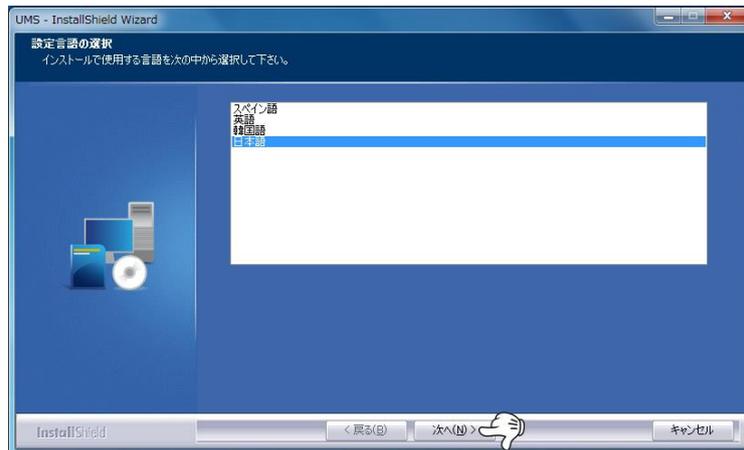
[参考]

UMSプログラムは機能追加や性能向上を目的としてプログラムが更新される事があります。
その際、PCの仕様によって機能が制限される場合や、PCの推奨仕様が変更される事があります。

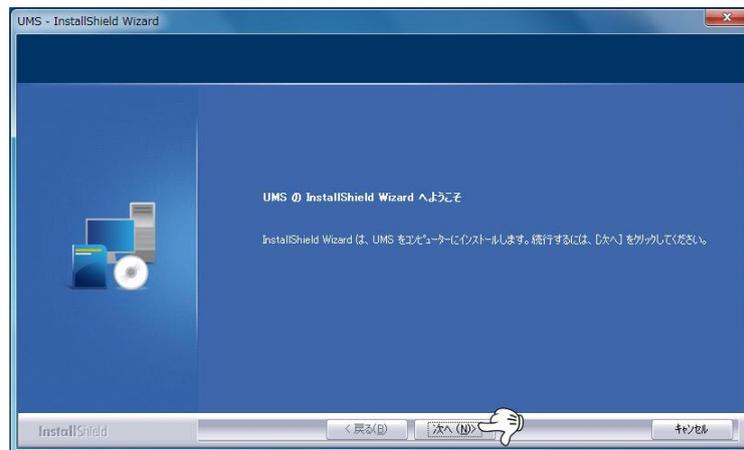
2. プログラム設置

[1] CDの中からUmsSetup.EXEファイルを実行します。

[2] 下記の順序に従って設置してください。

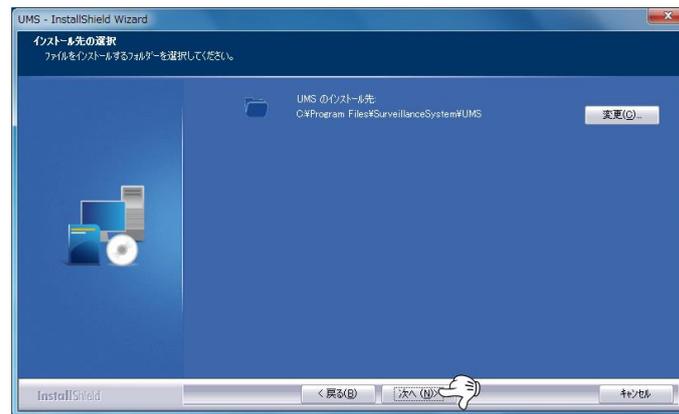


上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。

Universal Monitoring System



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。
保存先に変更がある場合のみ、“変更”を選択し、保存先を指定します。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。



上の画面で“次へ”ボタンをクリックします。
設置が正常に完了されたら、デスクトップに設置されたアイコンが表示されます。



3. ログイン

デスクトップのUMSアイコンをクリックすると、下図のようにログインの画面が表示されます。

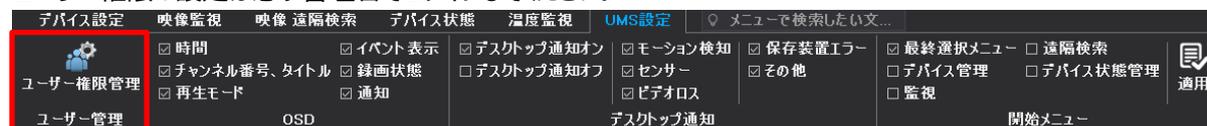
※ログイン画面を表示しない設定にしている場合、下記の画面は表示されません。



初期パスワードは下記を参考にしてください。

ユーザー区分	初期パスワード
admin(最終管理者)	admin
puser (中間管理者)	puser
user (一般ユーザー)	user

ユーザー権限の設定は必ず管理者でログインしてください。



権限設定をするにはUMS設定 -> ユーザー権限管理で設定します。

Universal Monitoring System

下図のように権限設定がポップアップされます。

上図の左側にあるユーザーリストでユーザーを選択後、下記の項目の設定が可能です。

ユーザー	ユーザーパスワード	選択されたユーザーのパスワードを変更します。
権限	デバイス管理	選択されたユーザーのデバイス登録関連の権限を設定します。
	監視	選択されたユーザーの監視機能関連の権限を設定します。
	遠隔検索	選択されたユーザーの遠隔設定関連の権限を設定します。
	デバイス状態管理	選択されたユーザーのデバイス状態関連の権限を設定します。
	UMS設定	選択されたユーザーのオプション関連の権限を設定します。

4. メインメニュー説明

UMSの上部にある6つのメニューで構成されています。

このメニューについては今後、機能改善を目的に変更される場合があります。

[1] デバイス設定



デバイス設定メニューは監視するためのデバイス登録、修正、削除が出来、監視デバイスを選択すると選択されたデバイスごとの操作メニューが表示されます。

[2] 映像監視



登録されたデバイスを監視するためのいくつかのメニューがあります。接続及び接続終了する事が出来、その他に遠隔設定、バックアップ、PTZ操作等も出来ます。

[3] 映像 遠隔検索



遠隔からの検索やキャプチャー、バックアップが出来る機能が表示されます。

[4] デバイス状態



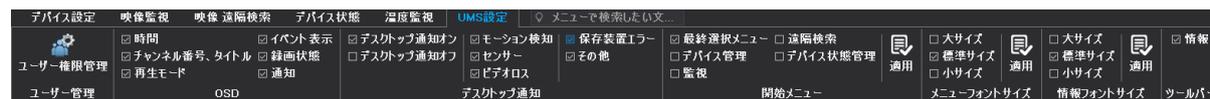
登録された監視デバイスのネットワーク状態、センサー発生の有無、ビデオロス等をモニタリング出来る機能が表示されます。

[5] 温度監視



温度計モジュールで測定した温度変化を遠隔で表示します。

[6] UMS設定



UMS設定はUMS上のOSDやフォントサイズ等の設定が出来ます。

5. 監視デバイス登録

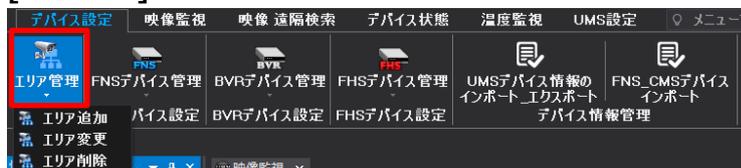
UMSを使用するために、最初に監視デバイスの登録が必要です。監視デバイスのタイプによって選択する項目が異なります。

デバイス登録はWINDOWSのフォルダーのように、メインフォルダーの中にサブフォルダーを作成する事が出来、使用方法は、WINDOWSと同じ方法で行う事が出来ます。

[順序-1] 監視デバイスを登録するには“デバイス設定”メニューを選択します。



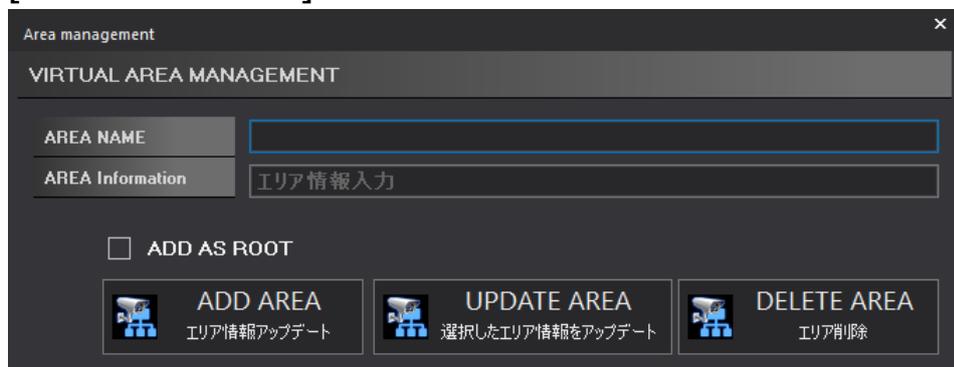
[順序-2・1] エリア管理



上図の赤枠にあるエリア管理を選択すると、エリアの追加/変更/削除をすることが出来ます。

	エリア追加	エリアを新規作成する際に選択します。
	エリア変更	登録されているエリアを修正変更する際に選択します。
	エリア削除	登録されているエリアを削除する際に選択します。

[エリア追加メニューの説明]



上図のように“AREA NAME”に任意の名前を入力します。エリアリストの名称になります。
 “AREA Information”は参考用の説明になり、エリアリストへの表示はされませんが、入力が必須になります。
 “ADD AS ROOT”をチェックすると、メインフォルダーへリストが作成され、チェックを入れないと選択したフォルダーの下層に作成されます。



(ADD AS ROOTをチェックした場合)



(ADD AS ROOTをチェックしない場合)

ADD AREA	エリアをリストに登録します。
UPDATE AREA	選択されたエリアの情報を更新します。
DELETE AREA	選択されたエリアを削除します。

Universal Monitoring System

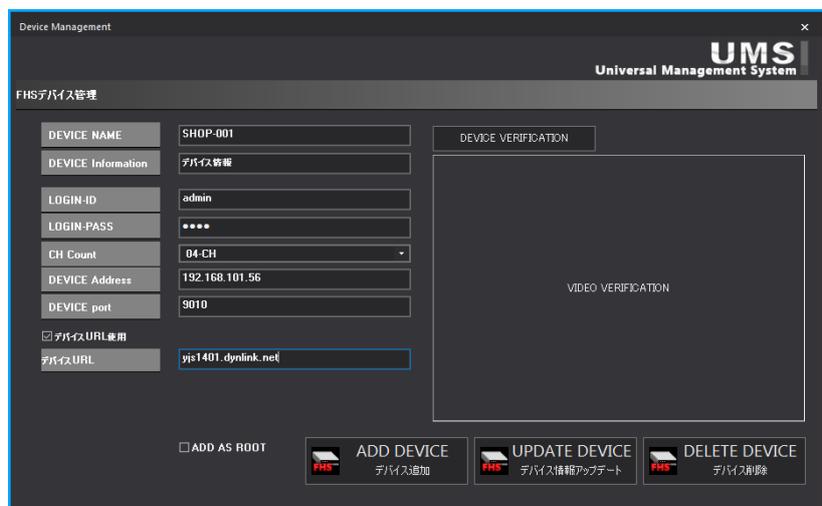
[順序-2・2] 監視デバイスの登録のために製品メーカーを選択します。



製品モデルによって登録ボタンが異なります。対象のモデルを選択して登録してください。

(下記の内容はFDS-HTシリーズでの説明になります。)

	4NSYS製品登録時に選択します。
	3R製品登録時に選択します。
	フォーカス製品登録時に選択します。



製品登録ウィンドウで監視デバイスの情報を入力します。

DEVICE NAME	ユーザー任意の名前を入力します。
DEVICE Information	参考用の説明を入力します。
LOGIN-ID	監視デバイスのログインIDを入力します。
LOGIN-PASS	監視デバイスのパスワードを入力します。
CH Count	監視デバイスのチャンネルを選択します。
DEVICE Address	監視デバイスのIPアドレスを入力します。(ローカルの場合のみ必要)
DEVICE port	監視デバイスの接続ポートを入力します。
デバイスURL	流動的IPユーザーの場合、チェックしてDDNSアドレスを入力します。

Universal Monitoring System

ADD AS ROOTにチェックを入れると、最上位のフォルダーに作成され、チェックを入れないと、選択したフォルダーの下層に追加されます。



(ADD AS ROOTチェックがない場合)



(ADD AS ROOT チェックした場合)

[順序-4] ADD DEVICE / UPDATE DEVICE / DELETE DEVICE



ADD DEVICE	監視デバイスリストに追加登録します。
UPDATE DEVICE	選択された監視デバイスの情報を更新します。
DELETE DEVICE	選択された監視デバイスを削除します。

インポート/エクスポート設定

既存(CMS)に登録していたデバイスデータをUMSにインポート/エクスポートします。

1. CMSの登録デバイスデータのインポート

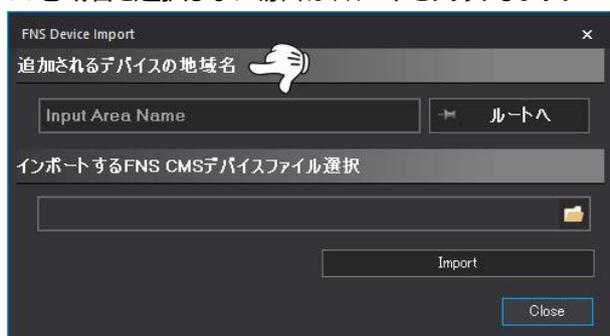
【順序-1】

下図にある『FNS_CMSデバイスインポート』をクリックします。

【順序-2】

追加するデバイスの地域名を選択します。

※地域名を選択しない場合は、ルートをクリックします。



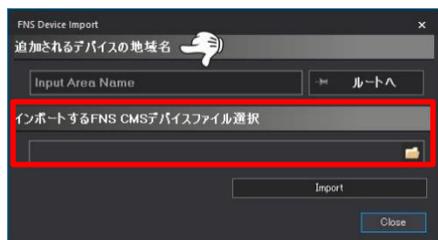
【順序-3】

下記の手順でCMSのiniファイルを表示させます。

```
PC>>Windows(C:)>>Program Files(x86)>>SurveillanceSystem>>CMS>>Config  
>>cms.iniをクリックします。
```

【順序-4】

赤枠のCMSデバイスファイル選択で、順序-4で保存したファイルを選択してImportをクリックすると、登録が完了します。



Universal Monitoring System

【注意】

インポート前に下記の作業を行ってください。

PC>>Windows(C:)>>Program Files(×86)>>SurveillanceSystem>>CMS>>Config
>>cms.ini下記のファイルで一番上の段落を1段空けます。

※その際に文字コードをUTF-8を選択してください。



2. UMSの登録デバイスデータのインポート/エクスポート

【順序-1】

下図にある『UMSデバイス情報のインポート_エクスポート』をクリックします。



【順序-2.1】エクスポート方法

左下図の画面のフォルダーアイコンをクリックすると、右下図のように保存先と保存名を入力するフォルダーが表示されます。そのフォルダー上で保存先と保存名を入力し、『開く』ボタンをクリックすると、選択した保存先に保存されます。



保存したデータは下図のように表示されます。



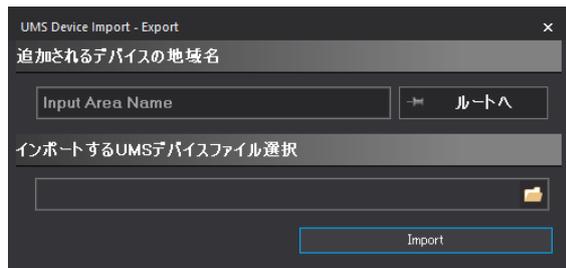
Universal Monitoring System

【順序-2.2】インポート方法

下図の画面上でインポートするデバイスの地域名を記入します。

※地域名を記入しない場合は、ルートボタンをクリックします。

次に『インポートするUMSデバイスファイル選択』の項目から下記のようにインポートしたいデバイスデータを選択します。フォルダーのアイコンから上記の【順序-2.1】エクスポートで保存したデバイスデータを選択し、『Import』ボタンをクリックすると、エクスポートした情報がそのまま登録されます。



UMS Device Import - Export

追加されるデバイスの地域名

Input Area Name ルートへ

インポートするUMSデバイスファイル選択

Import

6. 登録リスト移動及び並び替え機能

この機能はすでに登録されているリストを名称順に並び替えをする事が出来ます。

[5-1] マウスのドラックで移動

下図のようにリストを選択してドラックすると簡単に移動出来ます。



[5-2] 並び替え機能

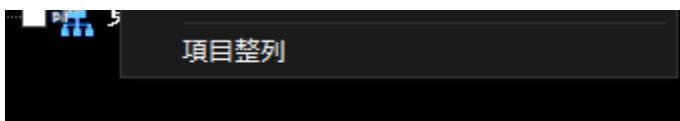
並び替え機能はアルファベット順に自動で並び替える機能です。



上図のようなリストがある場合、アルファベット順に並び替え出来ます。

フォルダー内を並び替えたい場合、フォルダー上で右クリックをして『項目整列』ボタンをクリックするとフォルダー内にあるリストが自動的にアルファベット順に整理されます。

※名前はあいうえお順にも可能です。



7. DVR 接続/接続終了

監視カメラの接続方法は4つの方法があります。

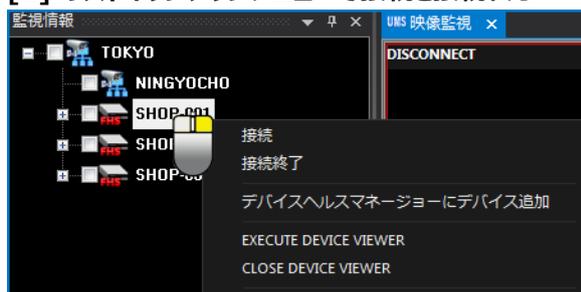
[1] リストをダブルクリックして接続



接続するリストをマウスの左ダブルクリックをすると接続されます。

※接続のみ可能です。

[2] リストポップアップメニューで接続と接続終了



接続するリスト上でマウスの右クリックをして、ポップアップメニューを表示させます。

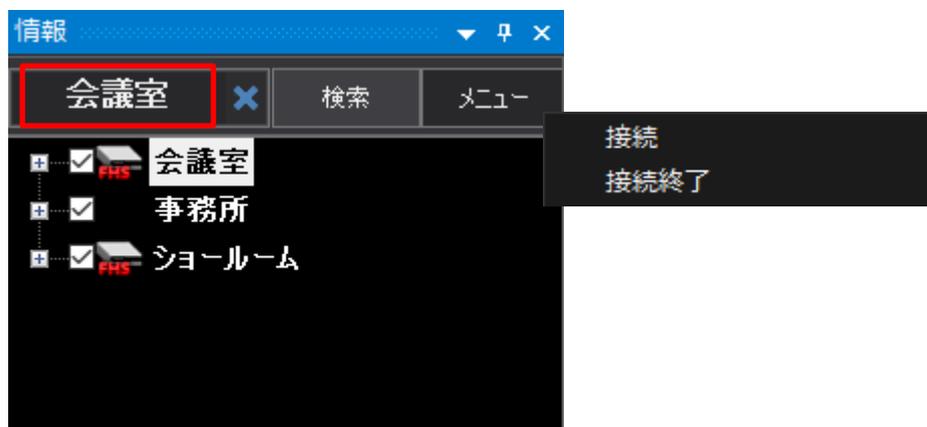
ポップアップメニューの接続/接続終了を選択します。

[3] 接続メニューで接続/接続終了



接続するリストを選択後、上部にあるメインメニューから接続/接続終了を選択します。

- [4] 下図の赤枠に接続したいデバイス名を入力して、検索ボタンをクリックすると、そのデバイスが選択されます。メニューをクリックして、接続をクリックすると、デバイスが接続されます。



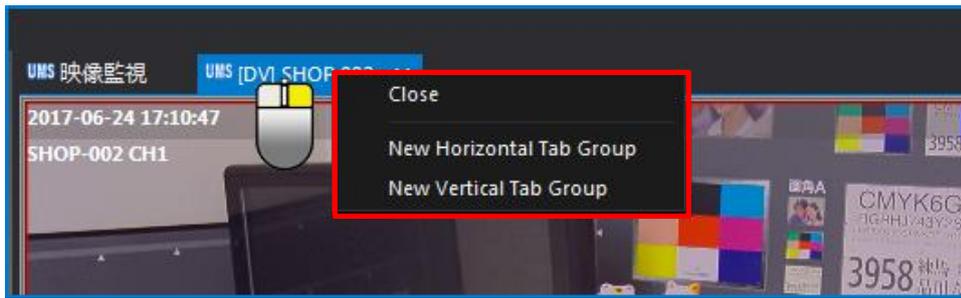
8. デバイスビューアー実行

映像監視画面に連続して接続していく方法が一般的ですが、デバイスビューアー実行は新しい監視ウィンドウを追加していく方法です。デバイスリストを選択後、SHIFT + マウスの左ボタンをダブルクリックすると、新しい監視ウィンドウで接続されます。



上図のように別の監視ウィンドウでモニタリングが可能です。

Universal Monitoring System

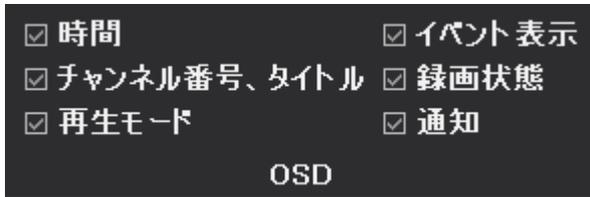


また、上図のマウスアイコンのように右クリックをして赤枠内で終了したり、下図のように映像を縦、横に分ける事が出来ます。また、他のモニターウィンドウに移動して監視も出来ます。



(監視ウィンドウを追加して2台~4台のモニターにそれぞれ移動して配置が可能です。)

9. 画面表示機能(ライブ/再生共通)



メインメニューの画面表示について、“UMS設定”メニューの中にあり、チェックした項目のみ表示されます。



A	映像のライブ時間を表示します。
B	チャンネル番号、タイトルを表示します。
C	 <ul style="list-style-type: none"> ① 赤色表示は録画中に表示されます。 ② 青色表示はライブ状態を意味して、赤色表示は再生モードを意味します。 ③ イベントが発生時、黄色で表示します。

※イベントが発生すると、画面の上下に赤い帯で表示します。

10. 画面分割モード



画面分割モード操作方法は2つあります。

画面分割モードから、決められた分割画面から選択する方法と赤枠の部分から縦横の分割モードを自由に設定して行う方法の2つがあります。

※2つの方法共に最大256分割まで可能となります。

[1] 設定された分割画面選択



上図のように“画面分割モード”をクリックして、複数の分割モードの中から選択します。

※最大16×16の256分割まで可能

[2] ユーザー任意の画面モード設定



ユーザー任意の画面分割はHOR(横方向の画面数) X VER(縦方向の画面数)を選択後、“適用”ボタンを選択すると変更出来ます。

※最大16×16の256分割まで可能

11. 順次接続(シーケンス機能)

順次接続とは、選択したリストのデバイスを指定した時間と分割画面で順次切替える機能です。

【順序-1】

下図のように監視の中にあるシーケンスの切替え時間と分割画面数を選択します。

切替え時間は20秒から10分まで選択可能です。(SEC)

切替え接続リスト1台から10台まで選択可能です。(ea)



【順序-2】

順序1で切替え時間と分割画面を選択し、下図のように、順次切替えたいデバイスにチェックを入れます。



【順序-3】

順次接続をクリックすると、選択したデバイスが自動で切り替わっていきます。

※下図の『仮想エリア』にチェックをすると、選択したエリア内のデバイスが順次切替えされます。



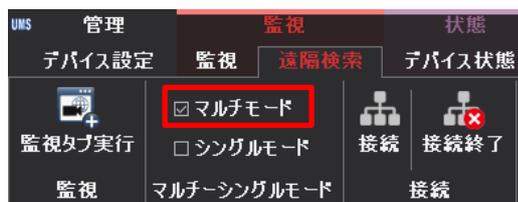
12. マルチ・シングルモード

接続モードはシングルモードとマルチモードの2種類があります。

シングルモードとマルチモードの違いはシングルモードは1つのウィンドウに1つのデバイスのみ接続可能で、他のデバイスを接続する際は、既存のデバイスが自動で切断して、新しいデバイスが接続され、2つ以上のデバイスを同時に接続する事はできません。マルチモードは複数のデバイスを同時に接続する事ができます。

【1】マルチモード

下図の赤枠にあるマルチモードにチェックを入れます。



マルチモードでは接続したデバイスが下図のように複数台同時に接続されます。

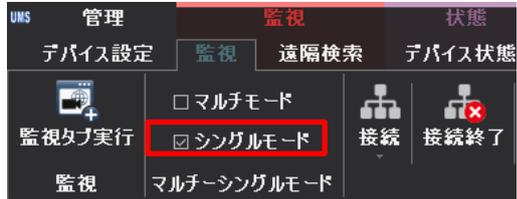
※パソコンの性能によって接続台数が増えると接続が途切れる場合があります。



Universal Monitoring System

【2】シングルモード

下图の赤枠にあるシングルモードにチェックを入れます。



シングルモードでは1つのデバイスが接続されます。



13. 音声機能(ライブ/再生共通)

音声機能はライブ、または再生時に音声を出力することができる機能です。



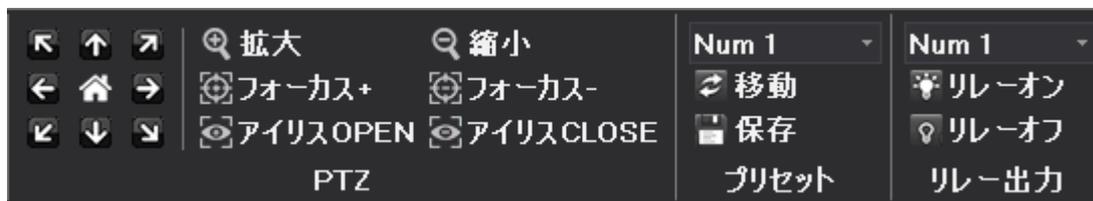
リストの中から音声を使用するデバイスを選択及び接続後、“音声”アイコンをクリックして、希望のチャンネルを選択する事で使用が出来ます。

(オプション)

自動	1つのチャンネルをクリックしてFULL画面にすると自動で音声機能可能。
<input checked="" type="checkbox"/> オフ	チェックすると、音声出力されません。

14. PTZ 遠隔操作

遠隔でPTZカメラを操作出来る機能です。遠隔で操作するためには監視デバイスでPTZ設定をしてください。



最初に、PTZ操作するためには、PTZが設置されたチャンネルを選択してFULL画面に変更後にメインメニューから操作が可能です。

※複数の箇所で遠隔接続して、PTZカメラの操作があった場合、後から操作をしたデバイスが動かすことが出来ます。

	PTZカメラの方向移動を操作します。
	PTZカメラ映像を拡大、縮小します。
	PTZカメラ映像のフォーカスを調整します。
	PTZカメラ映像のアイリスを調整します。
	<p>プリセット機能を使用出来ます。</p> <p>最初にプリセット番号を選択後、“移動”ボタンを選択すると、移動及び保存する事が可能です</p>
	<p>遠隔で強制的にアラーム出力を作動させる事が出来ます。</p> <p>(モデルによっては対応しない場合もございます。)</p>

プリセット機能

【順序-1】

操作したいカメラをフル画面で表示させます。

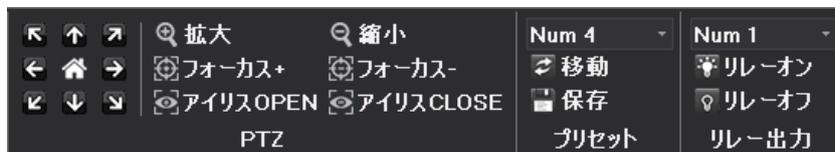


【順序-2】

下図の方向キーで設定したい位置まで移動させます。

移動後、プリセット番号をNum1-Num250から選択して保存します。

設定していない場所に移動しても、設定した番号を選択して移動ボタンをクリックすると、設定した場所に移動します。



【プリセット別名】

プリセット別名とは設定したプリセット位置をNum1のように番号ではなく、下図のように名前を選択する事が出来ます。

Num1をレジに設定しておくと、移動ボタンまたは、番号をダブルクリックすると、設定した位置に移動します。

※名前を入力した後、適用ボタンを押して保存してください。



15. 遠隔検索

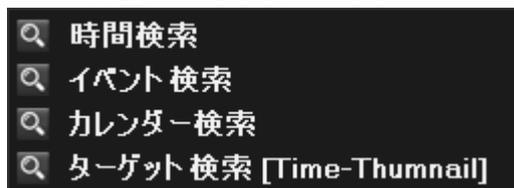
この機能は監視デバイスに保存された映像を遠隔で検索出来る機能です。
遠隔検索は時間検索、イベント検索、カレンダー検索、ターゲット検索があります。

[参考]

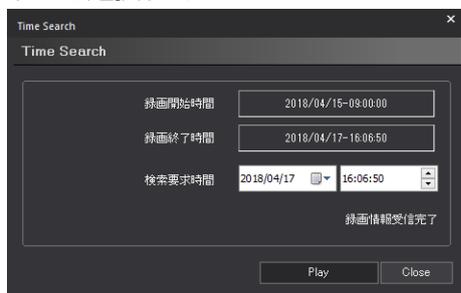
* インターネットを通じた検索のため、インターネット速度によって反応速度に差が出る事があります。

[1] 時間検索

時間検索とは時間を指定して、指定時間帯の映像を検索出来る機能です。



検索をするために最初に検索デバイスの映像を選択、またはリストを選択後、上図のように“時間検索”ボタンを選択します。

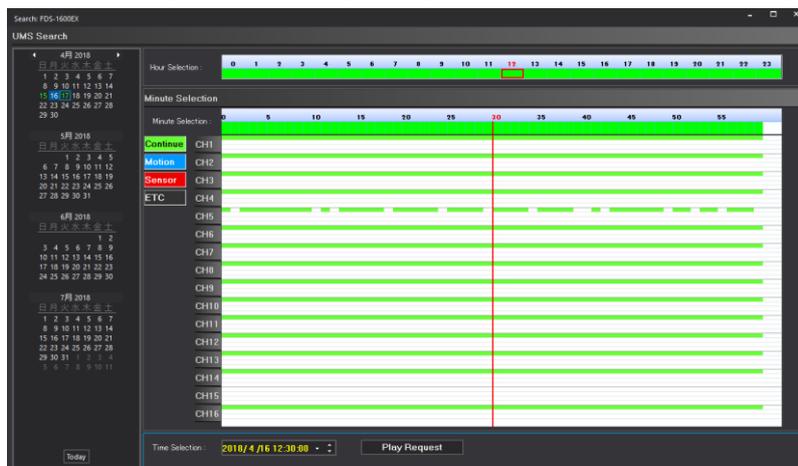


上図の画面で日付と時間を選択後、“再生”を選択すると再生されます。

* 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

[2] カレンダー検索

カレンダー検索とは、カレンダーから日付を選択して、該当の時間帯の映像を検索できる機能です。

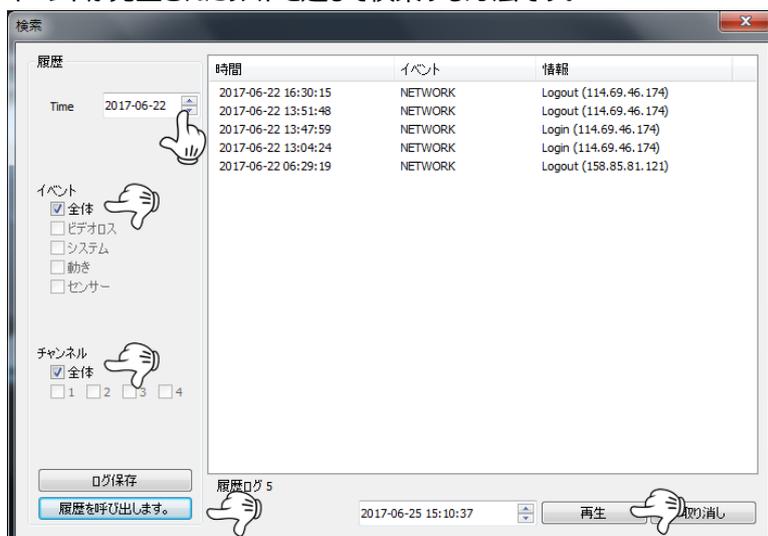


最初に、日付を選択後、時間と分を選択して“再生”ボタンをクリックすると再生されます。

* 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

[3] イベント検索

イベントが発生されたリストを通じて検索する方法です。



最初に日付選択 -> イベントの種類選択 -> チャンネル選択 -> “履歴を呼び出します。”ボタンをクリックするとイベントリストが検索されます。希望のリストをクリックし、“再生”ボタンをクリックすると再生されます。

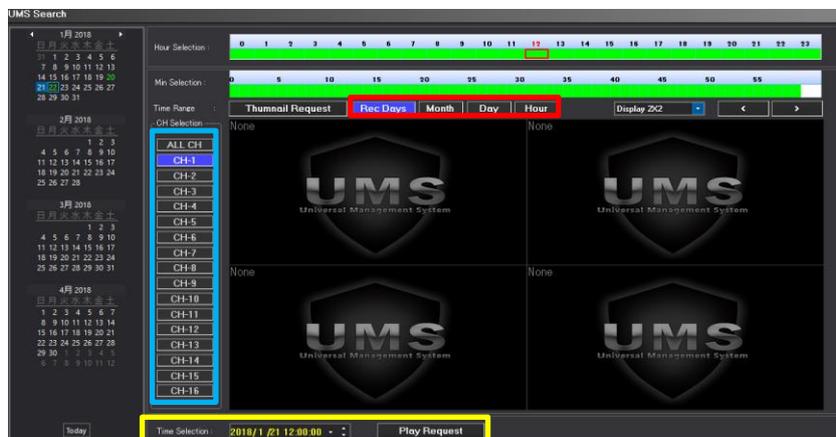
* 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

Universal Monitoring System

【4】ターゲット検索

一定間隔の静止画で表示されて、目的の映像範囲を簡単に探すことができます。

検索>>プレビュー検索(Time-Thumbnail)



(1)上図の青枠の部分で希望のチャンネルを選択します。

(2)上図の赤枠部分で、必要な静止画の日付、時間帯を選択します。

Hour : 指定した時間(0時~24時)内の1時間分の映像を1分おき(60枚分)の静止画として表示します。

Day : 指定した日付の1日分の映像を1時間おき(24枚分)の静止画として表示します。

Month : 指定した日付の前後15日間の映像を1日おき(30枚分)の静止画として表示します。

Rec Days : 録画データがある全ての映像を静止画として表示します。

(3)Thumbnail Requestをクリックすると、選択した時間帯の映像が静止画として表示されます。

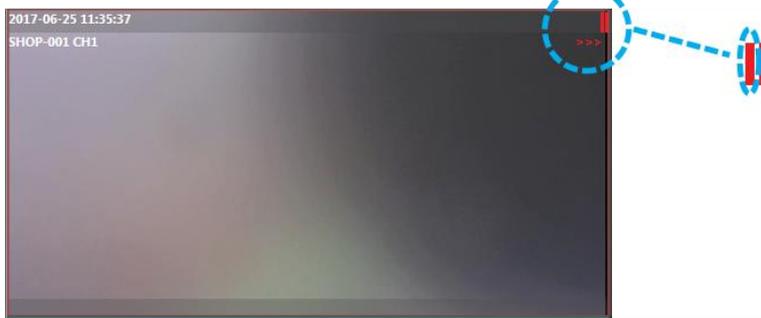
(4)静止画像を確認して、確認したい静止画の部分を映像として表示する場合、上図の黄色枠にある時間を設定して、Play Requestボタンをクリックします。

[5] 再生ボタン機能

再生後、倍速/逆再生等を行うことができます。

	巻戻しボタン (クリックするたびに速度が速くなります。)
	停止ボタン
	再生ボタン
	早送りボタン(クリックするたびに速度が速くなります。)
	ライブモードに戻ります。

[再生モード画面]



映像が再生中の場合、上段の右から2番目のバーが赤色に表示されます。

多くの監視デバイスが接続されている場合、どの装置が再生中なのかを確認するためです。

再生速度が速いほど ">>>" 表示が増加します。

*倍速表示は製品のモデルによって最高速度が異なる事があります。

備考：再生中の画面色については「8. 画面表示機能(ライブ/再生共通)」を参照してください。

16. 遠隔バックアップ / ビュアー

この機能は監視デバイスに保存された映像を遠隔でバックアップ出来る機能です。
遠隔バックアップにはライブバックアップ/スケジュールバックアップがあります。

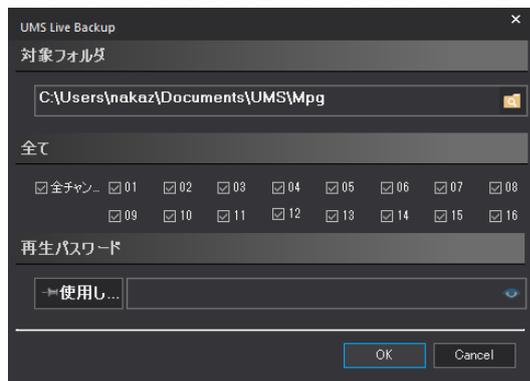


[参考]

* インターネットを通してバックアップするため、インターネットの速度によって、反応速度に差が出る事があります。

[1] ライブバックアップ機能

ライブバックアップは接続されている画面の映像をバックアップする機能です。



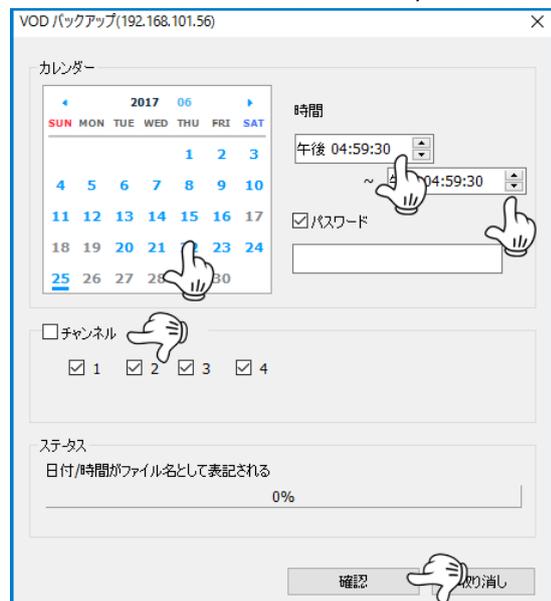
最初に、保存先フォルダーを選択します。選択がない場合、基本フォルダー（マイドキュメント→CMS）に保存されます。

バックアップするチャンネルを選択後、“確認”ボタンをクリックすると、ライブバックアップが始まります。ライブバックアップを停止したい場合は、もう一度メインメニューから“ライブバックアップ”ボタンをクリックすると停止します。

* 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

[2] スケジュールバックアップ機能

スケジュールバックアップとは希望の日付/時間帯を選択してバックアップする機能です。



最初に、カレンダーから日付を選択 -> 時間を選択 -> バックアップするチャンネルを選択後、“確認”ボタンを選択すると、バックアップが開始します。バックアップを停止したい場合は、もう一度メインメニューから“スケジュールバックアップ”ボタンをクリックすると停止します。

* 監視デバイスによって表示されるメニューや機能の差がございます。

[3] ビュープログラム使用法

バックアップ後、バックアップされた映像を見るためのビュープログラムはモデルによって異なる事があります。

ビュープログラムがある場所は下記のフォルダーを参考にしてください。

32bit Windowsの場合 : C:\Program Files(x86)\SurveillanceSystem\UMS

64bit Windowsの場合 : C:\Program Files\SurveillanceSystem\UMS

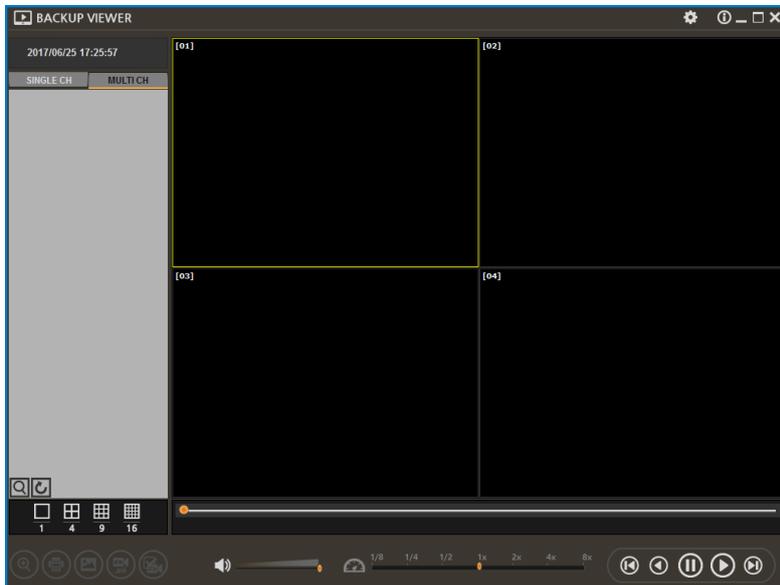
よく使用する場合は、デスクトップ上にショートカットを作成してご利用ください。

ビュープログラムは監視デバイスのモデルによって異なります。

BkViewer	FNS製品 (アナログDVR)
BkViewerHD	FNS製品 (AHD, HD-SDI DVR)
MultiBackupViewer	FHS製品 (AHD, EXSDI, NVR)

[1] MultiBackupViewer 使用法

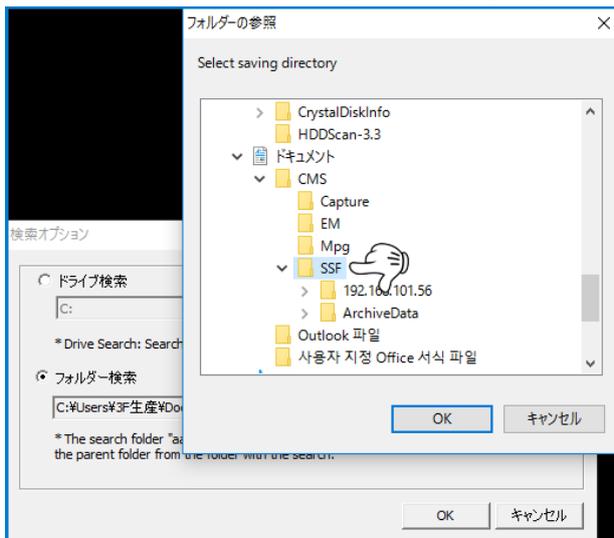
FHS製品のビューアプログラムです。



ファイルを開く



ファイルを開く場合、映像データがあるメインディレクトリーを選択する事で、正常的にバックアップデータを読み込むことが出来ます。バックアップされた映像データは数字で表示されます。



※重要：データを選択時、データが入っているフォルダーのメインフォルダーを指定してください。

Universal Monitoring System

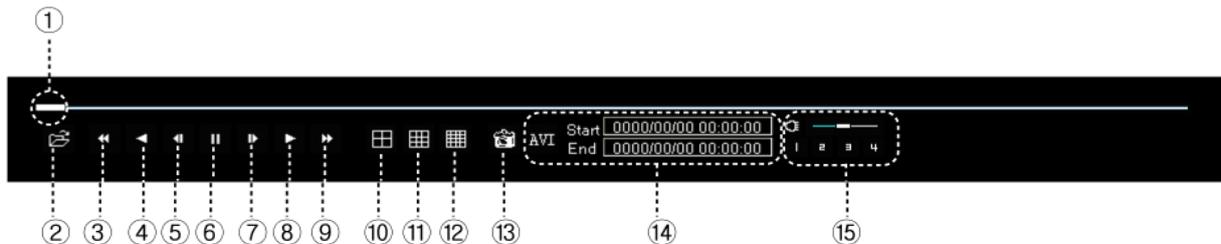
	単一チャンネルのみ、または複数のチャンネル同時かを再生時に選択します。
	出力音声の音量を選択します。
	再生速度を選択します。
	再生/逆再生/コマ再生等、再生方法を選択します。
	一時停止後、デジタルズームを使用します。(マウスホイール)
	一時停止後、画面をプリントする事が出来ます。
	一時停止後、イメージをキャプチャーする事が出来ます。
	一時停止後、映像をAVIに変換出来ます。
	AVIファイルが変調されたのか確認出来ます。

[2] BKViewer 使用法

FNS製品のアナログ監視デバイスのビューアプログラムです。



バックアップしたデータはパソコン上からビューアプログラムを利用し、再生速度などコントロールすることが可能です。

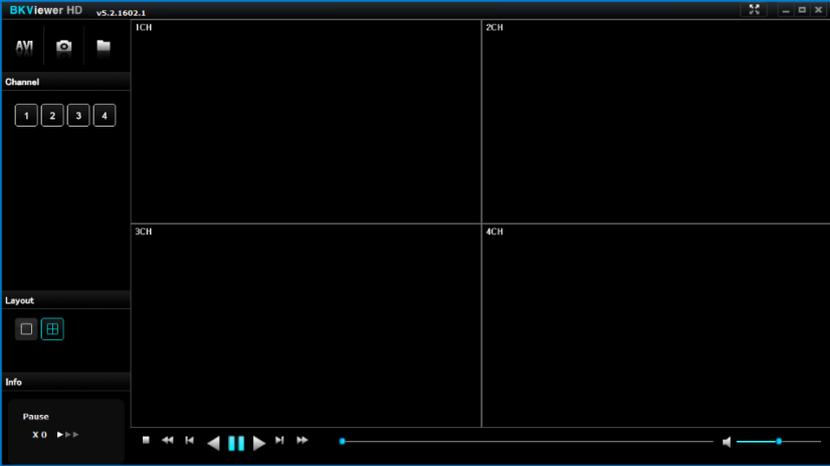


Universal Monitoring System

- ① スクロールバー：バーを移動して、再生位置を変更することができます。
- ② フォルダー：他のバックアップファイルを開くことができます。
- ③ 巻戻し
- ④ 逆再生
- ⑤ 逆コマ送り
- ⑥ 一時停止
- ⑦ コマ送り
- ⑧ 再生
- ⑨ 早送り
- ⑩ 4分割画面
- ⑪ 9分割画面
- ⑫ 16分割画面
- ⑬ キャプチャー：ドキュメント-CMS-MPGフォルダにイメージファイル(BMP)を保存します。
- ⑭ AVI変換：再生中にAVIファイルに変換する区間をそれぞれ“START”と“END”の空欄をクリックすると、時間が自動に入力されます。
“AVI”ボタンをクリックして、変換するチャンネルなどを選択して、変換を開始します。
- ⑮ 音声出力：映像データとともに記録されている音声を出力することが出来ます。

[3] BKViewerHD 使用法

FNS製品のAHD, HDSDI監視デバイスのビューアプログラムです。



	映像資料開く
	イメージキャプチャー機能
	映像をAVIに変換する機能
	チャンネル選択機能
	分割画面選択機能
	再生/逆再生/早送り機能
	音声の音量調節

17. キャプチャー

この機能は、ディスプレイに表示されている静止画像や動画を画像データとして指定のファイルに保存する機能です。

【順序-1】

左下図の赤枠にある映像キャプチャーをクリックします。

クリックすると、右下図の黄色枠にある映像キャプチャーの保存形式(JPEG/BMP/PNG/TIFF)が表示されます。

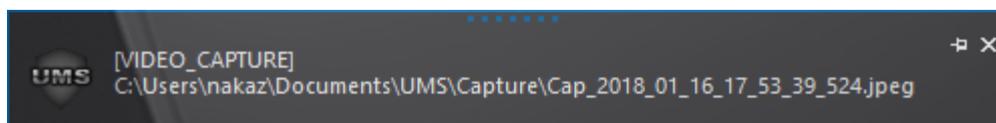
保存形式 4 つの中から希望の保存形式を選択してクリックします。



【順序-2】

順序-1の作業を行うと、下図のように画面右下に保存先が表示されます。

※保存名はキャプチャーした日付と時間で保存されます。



18. ズーム

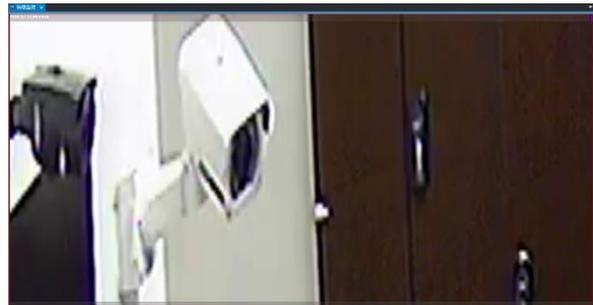
この機能は、ディスプレイの映像を拡大/縮小する機能です。

【1】フル画面でのズーム方法

マウスホイールを使用して、拡大縮小する事が出来ます。



【ズーム前】



【ズーム後】

【2】分割画面でのズーム方法

分割画面上でズームしたいチャンネルを選択後、【1】と同じように拡大縮小する事が出来ます。



【ズーム前】

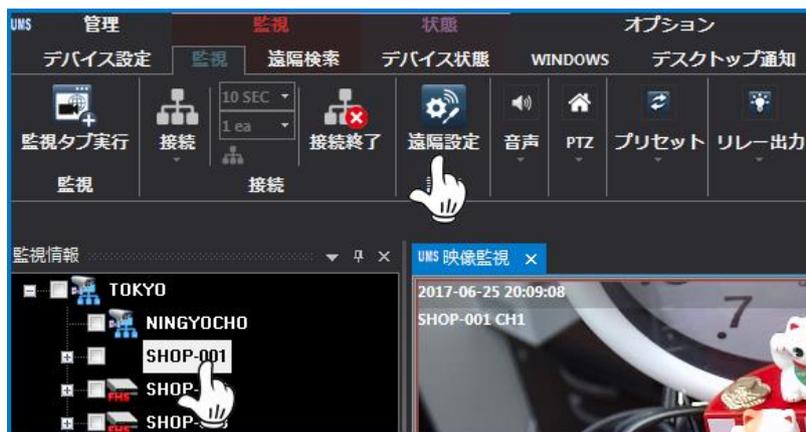


【ズーム後】

19. 遠隔設定機能

遠隔地に設置された監視デバイスを遠隔で設定する機能です。

遠隔設定メニューは製品によって異なります。



遠隔設定が必要な監視デバイスをリストから選択、またはライブで映像を選択します。

上部のメニューから“遠隔設定”アイコンを選択すると遠隔設定ビューアウィンドウが開きます。

[参考]

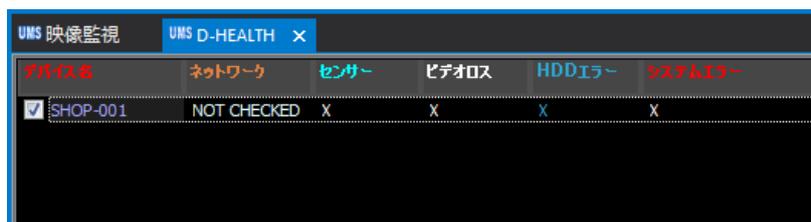
* 遠隔設定方法は製品によって機能が異なりメニューウィンドウも異なりますが、デバイス本体設定と同じような形式になっています。使用方法は監視デバイスマニュアルを参考にしてください。

20. デバイスヘルスマネージャー機能

デバイスヘルスマネージャー機能は接続された複数の監視デバイスに、ネットワーク、センサー、ビデオロス、HDDエラー、システムエラーに対する問題が発生した際に通知する機能です。



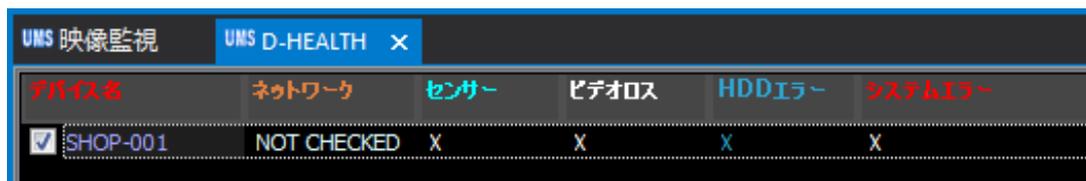
この機能を使用するためには、最初にリストからマウス右クリックし“デバイスヘルスマネージャーにデバイス追加”を選択します。フォルダー上でデバイス追加をクリックすると、フォルダー内にあるリスト全てが追加されます。



上図のように選択された監視デバイスが登録されます。
登録したい監視デバイスについて同じ方法で登録してください。



デバイスチェックが何分間隔で監視するかに対する時間を選択後、“チェックスタート”ボタンをクリックすると設定した時間の周期でデバイス監視が開始されます。



上図のように“X”で表示される場合、正常であることを意味します。

Universal Monitoring System

デバイス名	ネットワーク	センサー	ビデオロス	HDDエラー	システムエラー
<input checked="" type="checkbox"/> SHOP-001	NOT CHECKED	X	1 Occured	X	X

監視デバイスに異常が発生した場合はリストが赤く点滅して、該当のイベントに発生数を表示します。

イベントが発生したリストをマウスでダブルクリックすると、リストのライブ映像が接続され、実際の異常有無を確認出来ます。

	連続接続機能で設定された時間周期と関係なく常に接続しチェックします。
	連続接続機能を解除します。
	時間接続機能を中止します。
	リストから選択されたデバイスのライブ接続機能 (リストをダブルクリックと同じ機能)
	ライブ接続解除ボタン

デバイス状態のエクスポート

デバイス名	ネットワーク	センサー	ビデオロス	HDDエラー	システムエラー
<input checked="" type="checkbox"/> 店舗C	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> 店舗D	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> 店舗A	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> 店舗B	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> 店舗S	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> ヤン部長	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> ヤン部長	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> 京都信金様デモ	NOT CHECKED	X	X	X	X
<input checked="" type="checkbox"/> ヤン部長	NOT CHECKED	X	X	X	X

21. 温度監視

この機能は別途提供の温度計の情報を遠隔で表示する機能です。

【1】温度計デバイス管理設定

1. 仮想温度計追加をクリックして、登録画面に移動します。



2. 下図の登録画面から必要情報を入力します。

TM DEVICE RS-485 ID	SELECT ID
1	<input checked="" type="checkbox"/> Select
2	<input type="checkbox"/> Select
3	<input type="checkbox"/> Select
4	<input type="checkbox"/> Select
5	<input type="checkbox"/> Select
6	<input type="checkbox"/> Select
7	<input type="checkbox"/> Select
8	<input type="checkbox"/> Select
9	<input type="checkbox"/> Select
10	<input type="checkbox"/> Select
11	<input type="checkbox"/> Select
12	<input type="checkbox"/> Select
13	<input type="checkbox"/> Select
14	<input type="checkbox"/> Select
15	<input type="checkbox"/> Select

V.T.M名：適当な名前を入力します。

V.T.M情報：情報メモを入力します。※V.T.M名に入力した名前と同様でも構いません。

シリアルポート：シリアルポートを選択します。※画像1の赤枠部分でシリアルポートを確認します。

デバイスマネージャ-> ポート(COMとLPT)から番号を確認します。

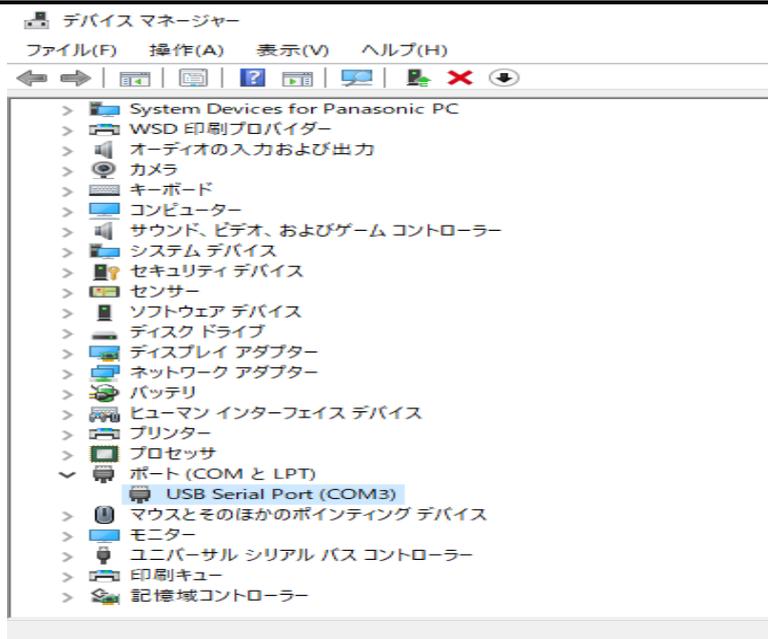
転送速度：転送速度を選択します。

パリティ：パリティを選択します。

デバイスビット：デバイスビットを選択します。

使用するRS-485 IDの選択：ID番号を選択します。

Universal Monitoring System



【画像1】

3. 仮想温度計追加をクリックして、登録します。

仮想温度計情報修正で登録情報の修正、仮想温度計削除で登録情報の削除が出来ます。

【2】温度監視ウィンドウ実行

1. 温度監視ウィンドウ実行をクリックします。



2. 登録したデバイスをリスト上でクリック後、開始をクリックします。

登録デバイス情報、通信状態、最高温度、ポイントごとの温度等を確認出来ます。



3. 最高温度にチェックを入れると、ポイントで最高になった箇所の温度が赤く表示されます。

チェックを外すと温度の高さによって色が変化します。

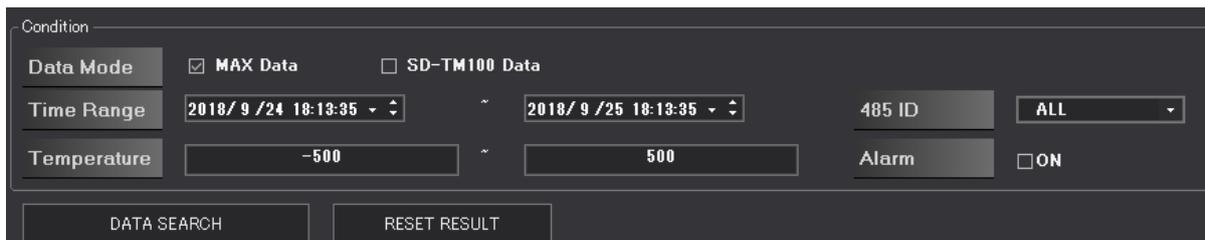
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
21	22	22	23	23	24	24	24	24	25	24	24	24	24	23	24	23
23	23	23	23	24	25	24	24	25	24	25	24	25	25	24	25	24
22	22	23	23	25	24	25	25	26	25	26	26	26	24	25	25	24
21	22	22	21	24	23	24	24	24	25	24	25	24	24	24	24	24

【3】温度検索ウィンドウ実行

1. 温度検索ウィンドウ実行をクリックします。



2. 下図で検索する条件を設定します。



Date Mode : 基準にするモードを選択します。

※MAX Dateの場合【画像2】の赤枠部分に表示されるデータもMAXを記録した温度計のみを表示します。

SD-TM100 Dateの場合【画像2】の赤枠部分に表示されるデータは接続している全ての温度計を表示します。

Time Range : 検索する時間の範囲を選択します。

Temperature : 検索する温度の範囲を選択します。

485 ID : 検索で表示するID番号を選択します。

Alarm : アラーム出力の可否を選択します。

DATA SEARCH : 検索を開始します。

RESET RESULT : データが初期化されます。

3. 選択した設定の温度データを確認出来ます。

Time	Max-Temp [C]	Alarm	Max-485 ID	Max-SS	Max-X	Max-Y	TM 485 ID	TM Max-Temp [C]	TM Max-SS	TM Max-X	TM Max-Y	TM Alarm	TM DO	TM FW-Ver	TM Status
2018/10/01 13:10:33	26.9	OFF	1	1	11	2	1	26.9	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:10:23	26.7	OFF	1	1	11	2	1	26.7	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:10:12	26.7	OFF	1	1	11	2	1	26.7	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:10:03	26.5	OFF	1	1	11	2	1	26.5	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:09:53	26.7	OFF	1	1	11	2	1	26.7	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:09:43	26.7	OFF	1	1	11	2	1	26.7	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:09:33	26.8	OFF	1	1	11	2	1	26.8	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:09:22	26.9	OFF	1	1	11	2	1	26.9	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL
2018/10/01 13:09:13	26.7	OFF	1	1	11	2	1	26.7	1	11	2	OFF	OFF	151	NORMAL

Time : 時間を表示します。

Max-Temp[.C] : 一番高い温度が記録された温度計のMaxの温度を表示します。

Alarm : アラーム出力可否

Max-485 ID : 一番高い温度が記録された温度計のIDを表示します。

Max-SS : 一番高い温度が記録された温度計のセンサーを表示します。

Max-X : センサーのX軸の数字を表示します。

Max-Y : センサーのY軸の数字を表示します。

TM 485 ID : 温度計のIDを表示します。

TM Max-Temp : TM 485 IDで表示されたIDの温度を表示します。

TM Max-SS : TM 485 IDで表示された温度で一番高い温度が記録された温度計のセンサーを表示します。

TM Max-X : TM 485 IDで表示された温度計のセンサーのX軸の数字を表示します。

Universal Monitoring System

TM Max-Y : TM 485 IDで表示された温度計のセンサーのY軸の数字を表示します。

TM Alarm : アラームの情報を表示します。

TM DO : DOの情報を表示します。

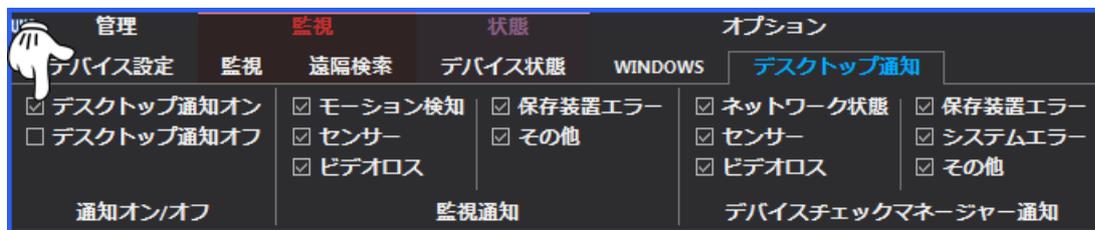
TM FW-Ver : 温度計のバージョンを表示します。

TM Status : 温度計のステータスを表示します。

※青枠の項目を押すことによって、高い温度から順に表示したり、低い温度から順に表示したり整理することが出来ます。

22. デスクトップ通知

この機能はUMSプログラムを実行後、プログラムを閉じずに、最小化する時に様々なイベントに対してアラームウィンドウを表示する機能です。



上図のように“デスクトップ通知ON”した時には、選択されたイベントが発生時ウィンドウの下端右側にメッセージで通知される機能です。

